

2024年度活動概要

授業学(関西)研究会

本研究会では、2024年度は2023年度から継続で「学習者主体の学び」について考察し実践を試みている。

研究メンバーの中に英語科教育法などの教職課程生への指導を担当する者から、受講生がこれまで学んできた学習経験（指導教師の指導法）から離れることができず、その教師主体の学習形態から離れることができないことが指摘されている。この授業観を変えるために大学における授業においても学習者中心の学びを実現する必要があることを研究課題としている。

この学習者主体の学びへのパラダイムシフトを阻む要因を考察するため『学習者主体の学びのためのインストラクショナルデザイン理論とモデル』（2020、北小路書房）を輪読本として考察している。この研究は2025年度も継続して行う。

また、これらの研究成果としてJACET国際大会 ワークショップ、大学教育研究フォーラム 参加参加者企画セッション等で研究発表を行い、授業学(関西)研究会 第4号研究論集に原稿を集め発行している。